

メディアセンター収蔵貴重図書展 - 「フリードリヒ博士旧蔵書コレクション」から -

著者	駿河台大学メディアセンター
URL	http://id.nii.ac.jp/1307/00001383/



メディアセンター 収蔵貴重図書展

－「フリードリヒ博士旧蔵書コレクション」から－



駿河台大学メディアセンターに収蔵されている「フリードリヒ博士旧蔵書コレクション」から、歴史上著名な著作物をいくつか選んでご紹介します。

「フリードリヒ博士旧蔵書コレクション」について

カール・ヨアヒム・フリードリヒ（Carl Joachim Friedrich 1901－1984）博士は、アメリカの著名な政治、行政学者で、政党と権力の解明などに多大な業績を残した政治理論家として知られています。

博士は、ドイツのライプツィヒで生まれ、マールブルク大学を卒業後、ハイデルベルク大学で学位を得たのち1922年にアメリカに渡り、1938年帰化、ハーバード大学教授として行政学を講じました。

第二次大戦後、占領地統治に参画、欧米諸国の政治制度に精通し、全体主義研究に傾倒しました。殊に関係説と実体説を統合した新しい権力観を樹立し、この見地から権力分割を中核とする立憲政治を考察、民主政治との関連において官僚制、権力分立、議会政治などの諸問題を研究し、高い評価を得ています。

本コレクションには、南米、ヨーロッパの憲政史資料、法哲学、政治理論史、政治哲学、社会学、行政学などの古典、及び研究書が体系的に蒐集されており、博士の該博な知識を物語る優れた内容となっています。

図書のご紹介



トマス・ホッブズ著 『リヴァイアサン』 初版 1651年

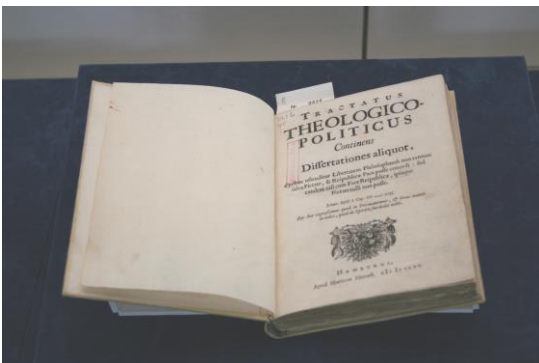
イギリスの哲学者、政治思想家ホッブズの主著。無制限な自然権の行使は「万人の万人に対する戦い」の状態になる。そこで人間は理性を働かせて逆に自然権の一部を放棄して相互に契約を結び、人々を代表する一つの意思に服従することにより、国家と主権が成立すると考えた。

なお、初版には2種の偽版が確認されている。左は真正の初版、右は偽版の一つ。

Hobbes, Thomas, 1588-1679.

Leviathan, or, The matter, forme, & power of a common-wealth ecclesiasticall and civil / by Thomas Hobbes of Malmesbury.

London, Printed for Andrew Ckooke [i.e. Crooke], at the Green Dragon in St. Pauls Church-yard, 1651. 394 p.:29 cm.



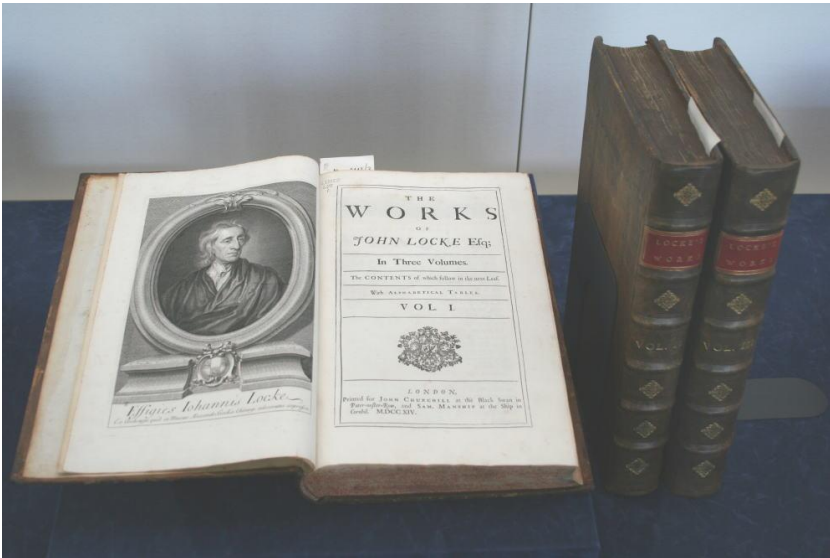
バルーフ・デ・スピノザ著 『神学政治論』 初版 1670年

オランダの哲学者スピノザの生前最後に刊行された著作。匿名で出版された。専制政治や神学者の不寛容に対して思想の自由を擁護したが、売神の書として激しい非難を浴び、15年の歳月を費やして完成した主著『エチカ（倫理学）』（1675頃）も遂に刊行されることなく、この後百年余にわたり、スピノザ哲学そのものが永く葬り去られることになる。

Spinoza, Benedictus de, 1632-1677.

Tractatus theologico-politicus continens dissertationes aliquot, quibus ostenditur libertatem philosophandi non tantum salva pietate, & reipublicæ pace posse concedi : sed eandem nisi cum pace reipublicæ, ipsaque pietate tolli non posse ...

Hamburgi : Apud Henricum Kunnraht [sic.], 1670. [12], 233, [1] p.:21 cm. (4to)

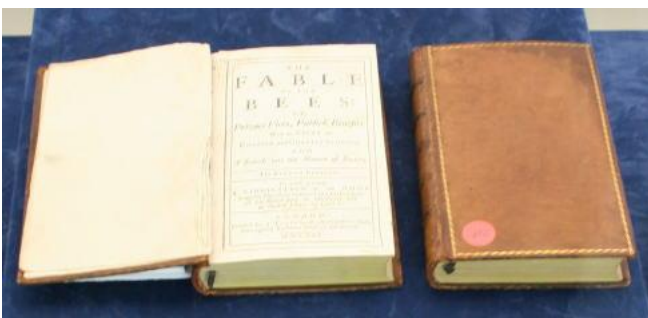


ジョン・ロック著作集 全3巻 1714年

イギリス経験論の哲学者、政治思想家であるジョン・ロックの死後、最も早い時期に刊行された著作集である。

Locke, John, 1632-1704

The works of John Locke Esq. in three volumes : the contents of which follow in the next leaf with alphabetical tables
London, J. Churchill and S. Manship, 1714. 3 vols.



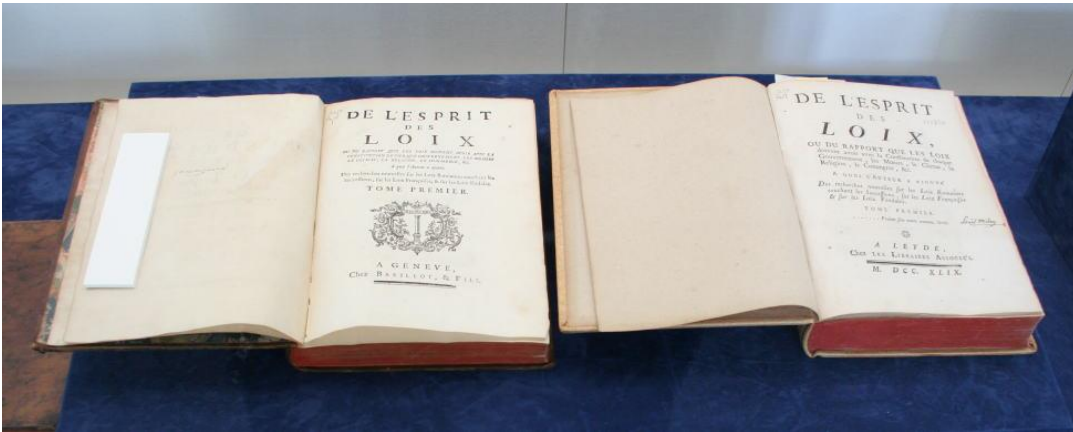
マンデヴィル著 『蜂の寓話、または個人の悪徳は社会の利益』 第4版 1725-1729年

初版は1714年。伝統的なキリスト教道徳は、社会を単純化し活力を失わせ衰退させる、と当時の道徳を厳しく批判し、逆に個人の欲望に根ざす悪徳こそ社会全体の利益になる、と説き、アダム・スミス、ベンサム、ヴォルテール、モンテスキューらに影響を及ぼした。

Mandeville, Bernard de, 1670-1733

The fable of the bees, or, Private vices, publick benefits : with an essay on charity and charity-schools and a search into the nature of society. 4th ed.

London, J. Tonson, 1725, 1729. 2 vols.



モンテスキュー著 『法の精神』 初版 1748年 (写真左)

モンテスキューの著『法の精神』は、多くの批判を受けながらも、刊行18ヶ月を経ずして21版を重ねるほどであった。共和制、君主制、専制の三政体論の分析及び執行権、立法権、司法権の均衡を説いたいわゆる三権分立論によって広く知られている。

Montesquieu, Charles de Secondat, Baron de la Brède de, 1689-1755.

De l'esprit des lois : ou du rapport que les lois doivent avoir avec la constitution de chaque gouvernement, les moeurs le climat, la religion, le commerce, & c

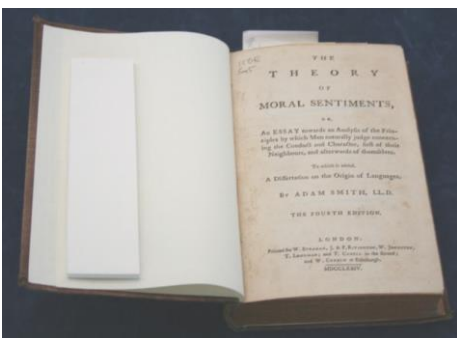
Geneve, Barillot & Fills, [1748]. 2 vols.:26 cm.

モンテスキュー著 『法の精神』 1749年 (写真右)

Montesquieu, Charles de Secondat, Baron de la Brède de, 1689-1755.

De l'esprit des lois : ou du rapport que les lois doivent avoir avec la constitution de chaque gouvernement, les moeurs le climat, la religion, le commerce, & c

Leyde, Libraires Associe, 1749. 2 v. in 1:26 cm.



アダム・スミス著 『道徳感情論』 第4版 1774年

初版は1759年。古典経済学の創始者とされるアダム・スミスの著作で生前に刊行されたものは、『国富論』(An inquiry into the nature and causes of the wealth of nations, 1776)と本書である。

古典人文学の豊かな素養を踏まえつつ、グロティウス、ホッブズ、ロック、ヒューム、ルソーなどに学び、独自の自然法理論の展開を試みている。

Smith, Adam, 1723-1790.

The theory of moral sentiments. To which is added a dissertation on the origin of languages. 4th ed.

London, Printed for W. Strahan ... [et al.], 1774. 476 p. 20 cm.